

ロータス東海の ちいらしっこ通信



今月のちいらしっこ話

紙の金メダル

芸術家の岡本太郎は、子供の絵の審査員を頼まれた際に壇上が上がって最優秀賞の発表をするときにこう言ったのだそうです。全員最優秀賞です。

慌てる主催者たち。全員素晴らしい。全員に賞をあげてください。そもそも岡本太郎は子供こそ真の芸術家と考えている人でしたから、子供の絵に順位をつけることなどするわけがないのです。

小学校に代理教員として絵を教えに行ったある先生の話です。授業では児童たちに校庭にある大きな木の写生をさせていました。すると一人の児童が木の幹を紫色に入っているではありませんか。

驚いた先生はその子に、「よくあの木を見て。こういう色じゃないんじゃないかな。」

するとその子はこう答えたのです。「いいんだ。僕は紫が一番好きな色なんだ。僕はこの木が一番好きな木なんだ。だから一番好きな色を一番好きな木にあげたんだ。」この言

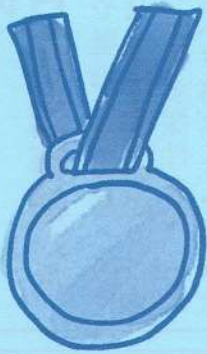
葉を聞いた先生は子供に教えられたと思いました。

しかし、今の教育では木を紫色に塗った子に最高点をあげることはできません。考えた先生は自分で紙の金メダルを作つてその子にあげたのです。

そんな出来事から何年も経つてからのこと。先生はふと思いつつてこの出来事をラジオ番組に投稿しました。

その放送を聞いていたあの時の児童本人から先生のもとに手紙が届いたのです。

あの時、先生からもらった金メダルは今も大切に持っています。僕は今、絵の勉強をしています。将来は画家になりたいと思っています。木の幹を紫色に塗っています。木の幹を紫色に塗った児童とその絵を認めてあげた先生。個性を認める大切さを改めて感じる出来事でした。



ロータス祭クニテン

よれいふ祭



高知商工会議所の有志が、経済復興の足掛かりになる祭りを企画し、県や市の賛同によつて誕生しました。

毎年8月9日(前夜祭)10日、11日(本番2日)、12日(後夜祭・全国大会)の4日間、高知市内9カ所の競演場・7ヶ所の演舞場で約200チーム、約18000人の踊り子が手に持った鳴子を鳴らしながら工夫を凝らし、地方車には華やかな飾り付けをして市内を乱舞する土佐のカーニバルです。この祭りには、全国的な不況の中、戦後の荒廃した市民生活が落ち着きを見せ始めた昭和29年8月に不況を吹き飛ばし、市民の健康と繁栄を祈願し、併せて夏枯れ

の商店街振興を促すため高知商工会議所が中心となり発足しました。昭和29年の第1回の参加人数は750人参加団体は21団体。その後、第30回にはついに踊り子人数1万人を突破し、「よさこい」は絶えず新しいものを取り入れ、チームの個性化はますます進みました。伝統的な音楽からロックのバンド演奏が増え、髪型や衣装も派手さを増しています。振り付けもサンバ調、ロック調、古典の踊りと工夫を凝らしており、見物人を飽きさせない祭りです。

【頭の体操】今月のなぜなぜ? ①体の中でいちばん働いているところはどこ? ②つ並べるとどうなるアルファベット? ③「落ちろ」と命令してぐるぐる食べ物? ④どんなに若い人でも「本多」は指が一本もないんじゃない? と疑われる人の職業は? ⑤日本で一番速く走る電車? ⑥なぜ?

ロータスクラブはCO2削減に取組んでいます



